

第6学年音楽科における「意味と内容」のひろがり

音楽専科 江田 司

－「私のお薦め30曲！」の学習をとおして－

1. 子どもに対するねがいと学習指導のねらい～単元目標と単元設定の理由

1-1 単元設定の理由

子どもの音楽的な資質・能力を伸ばすとともに、幅広く国民の音楽的文化レベルの基盤を育成することが、小学校音楽科教育の使命である。鑑賞領域の学習指導は、様々な音楽に直接触れさせる点から、後者に密接に関係する。とりわけ「価値」「遺産」「伝統」「芸術」的な音楽を、子どもたちにたくさん「感じ取らせ、気付かせて」いくことで、文化的、歴史的、社会的に寄与するのである。ところが、鑑賞活動を取り巻く現状をつぶさに見ると、以下、5つの問題点を指摘しなければならない。

- (1) 義務教育9年間に渡るきわめて脆弱な鑑賞指導取り組みの実態。とくに中学校では時間数削減がもたらす鑑賞領域を避ける現状（年間時数1割程度の扱い）。この先細り感を小学校音楽科ではどのように対応するか。《取り扱い時間数の不足》
- (2) 一方、評価研究とともに鑑賞指導の「質」に対する意識化がなされ始めてはいるが、教材の「量」に対する意識が乏しい現状。《教材「量」の不足》
*ここで言う「量」とは〈数量そのもの及び音楽の種類多様さ〉を指す。
- (3) 「質」追究の中に、教材選択に著しい偏りが見られる現状。例えば、表現領域との関連から三味線（箏）音楽のみ、「民族音楽」のみ、「地域音楽」のみ、「クラシック音楽」のみであったりする実態。《教材偏り傾向》
- (4) 操作性のよいCDやDVD映像等、新しい機械やソフトの特性を生かした指導法への対応の遅れ。《先進的な鑑賞指導技術の未熟さ》
- (5) 自分の住む地域に目を転じると、以上の結果ばかりではなかろうが、楽器店、CD店でのポップス音楽以外のコーナーの縮小または閉鎖。各種音楽会や発表会での入場者減あるいは横ばい状態の持続。入場者の高齢化、若者離れの実態等々。《教育結果としての社会的・文化的反映の弱さ》

以上述べた問題点の改善とともに、子どもたちの資質能力を伸ばすことが本実践の目的となる。

具体的には、子どもがよさを見つけてみんなに紹介したい曲を「私のお薦め曲」とする。次に、自分の経験や記憶をたよりに、自分の力でまわりからたくさんの「お薦め曲」を集める。さらに、それらを共有するところから様々な音楽に触れたり、そのよさを分かち合うことが、本単元の目標となる。

1-2 単元目標

○音楽のよさや美しさを味わって聴き、様々な音楽に親しむようにする。

本実践の主張点〔研究仮説〕は、次の通りである。

十分な時間的保障のもと、鑑賞教材の「量」的な拡大を足がかりに、鑑賞の「質」的な高まりを求めることで、様々な種類の音楽に親しむ子どもを育てることができるであろう。

2. 6年生の子どもがとらえた「意味と内容」～学習計画と指導の重点

学習計画中の第2次以降、子どもたちの活動「お薦め曲の発表」は、集めた曲をもとに授業構成するため、ここでは6年生C組で扱った〈子どもの発表曲〉をもとに授業の流れを例示した。もちろん他学級においても同様の授業が展開された。しかし、後述するが、それぞれの学級が持つ機動性によって、同じ展開をしても結果に変化が見られた。

2-1 授業の流れ 【6年生C組『私のお薦め30曲!』 全16時間】

第1次：「私のお薦め曲」を集める。学習内容：「音楽の種類」を知る。

《第1～3時》すべての子どもに紙片(8.5×9.5cm)を配る。お薦めの中から「3曲」だけを書く。残りの曲については、「曲数のみ」を数字で記入する。回収後、Excelで「お薦め3曲」の一覧表を作成。

〔表1〕【音楽の種類リスト】2種〔表2〕とともに再配布。さらに正式な『私のお薦め30曲!』プリント(1枚で15曲が記入できるもの)も配布。発表希望者(ボランティア)は〈エントリーの手続き〉をする(ホワイトボードへ、名前、曲名、発表方法を書く)。この間を利用して、「先生のお薦め曲」、ベートーヴェン作曲の『運命』を、小学生オケを指揮者チョン・ミョンフンが指導するNHK番組「未来への教室」の映像を視聴する(45分)。また、同指揮者のDVD映像『音楽の贈り物』からも『運命』第1楽章(演奏：東京フィル)を視聴する(7名がお気に入りに追加した)。

第2次：「私のお薦め曲」を発表する。学習内容：「発表の仕方、お薦めの増やし方」を知る。

《第4時》エントリーした順に発表する。1時間に2名ずつを予定するが希望者が多い場合は増やした。残る時間は、いつものリクエストタイム(2曲)。合奏教材『木星』(ホルスト作曲、演奏希望が多い曲である)。発表曲に対して、紙片を配り一言感想を書く。気に入った曲については自分の「お薦め」に加える。

《第5時》子どもたちの発表〔C〕：『ロコローション』『メヌエットK.334』

《第6時》〔C〕：『雨上がりの急な坂道』『ジュエルソング』『万華鏡キラキラ』

第3次：「先生のお薦め曲」〔T〕も聴く。「お薦め曲」を交流。学習内容：よさを見つける音楽の種類を増やす。子どもたちが日頃接しない曲も含め、映像や授業に工夫を加え提示する。適宜、希望により子どもたちの発表も組み入れていく。

《第7時》〔T〕『アイネ・クライネ・ナハトムジーク第1楽章〕、〔C〕『かたちあるもの』『ガンダムSEED』

《第8時》『木星』のリコーダー3重奏の練習。〔C〕：『眠りの森の美女から)花のワルツ』『花〕、〔T〕：CD『Classic BEST HITS MORE 100』から『木星』『アメイジング・グレイス』『水族館〕、DVD『リバーダンス』(民族音楽、ケルト音楽)から「春の収穫」

《第9時》〔C〕：『やさしさに包まれたなら』『ア・ホール・ニューワールド(日本語版)』『君にBUMP』

《第10時》〔T〕：バロック音楽「協奏曲『四季』作品8から『春』(ヴィヴァルディ)」CD聴き比べ

《第11時》〔T〕：文楽・義太夫『三十三間堂棟由来』から「平太郎住家」(マリオネットとの比較を含む)

《第12時》〔C〕：『(パッフェルベルの)カノン』『リライト』『イグナイテッド』

《第13時》〔C〕：『思いがかさなるその前に』『Happy Days』『A Hole New World(英語版)』

《第14時》〔T〕：「協奏曲『四季』作品8から『春』」のDVD視聴、現代音楽：『系図』-若い人たちのための音楽詩-から『むかしむかし』(武満徹/谷川俊太郎)CD

《第15時》〔C〕：『瞳をとじて』『Grip!』『Dandelion』

《第16時》〔C〕：『ココロのちず』『ヒカリ〕、〔T〕：『交響曲第4番へ短調 第4楽章(チャイコフスキー)』LD映像、『ピアノ協奏曲第2番へ短調 第1楽章(ラフマニノフ)』DVD映像、『系図』DVD(Video)映像

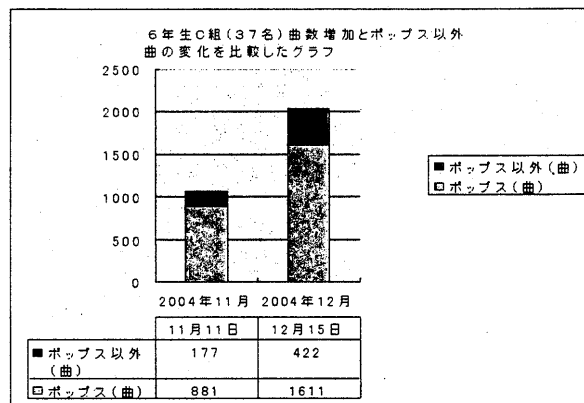
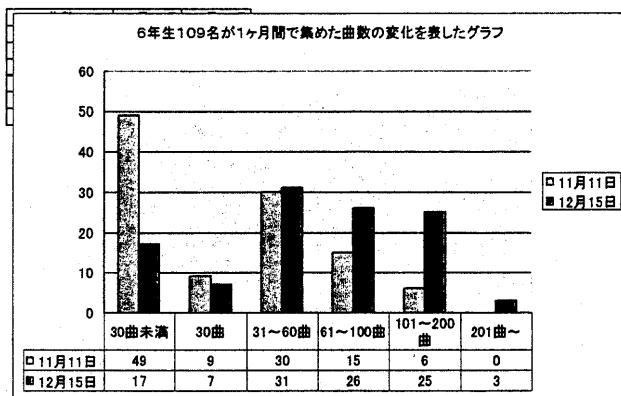
〔表1〕学級別・学年合計「お薦め曲」集計結果

	第1時	第3時	第16時
6年A組	315曲	947曲	2449曲
6年B組	257曲	1748曲	3541曲
6年C組	343曲	1058曲	2033曲
学年全体	915曲	3753曲	8023曲

本実践は、平成16年度教育研究発表会で発表された内容を含む。指導計画・指導案・本時までの授業記録等の詳しくは、当日の研究発表会要項、当日資料を参照されたい。

3. 「意味と内容」がひろがる場面～学習結果の実際〔資料1〕：6年C組

No.	曲数 (Pops以外)	コメント
30	210(2)	とても楽しかったです。この授業を受けられてよかったです。いっぱい曲が知れておもしろかったです。また授業したいです。すごくよかったです。大好きになりました。
5	136(3)	欠席
18	121(2)	いろいろな曲が知れてよかったです。クラシックも好きになりました。
35	105(3)	とても楽しい授業だった。知らない曲も何曲かあったけど…全部曲だと思った。曲を集めるのが少しはいへんだったけど、いっぱい集められし、とにかく楽しかった。
15	105(1)	クラシックが苦手やったけど、ちょっと好きになった。おもしろかった。曲を集めるのが楽しかった。いろいろな曲を聴けてよかったです。
21	104(102)	*僕はクラシックが好きでポップス系にはまったく興味がなかったんですけど、ちょっとずつ興味が出てきたような気がします。クラシックは家にCDで20枚(280曲)あるけど、このお薦めはほとんどそのCDからりました。コンピュータとかドラムが出す音とかはあまり好きじゃないからクラシックが好きになったんだけど、こういうポップス系を好きな人の気持ちが分かるような気がしました。
10	90(1)	ぼくの超お薦めは、「ココロのちず」。この勉強をやって、お薦めが100曲近くできたのでよかったです。
33	85(1)	ポップス系の曲ばかり聴いてクラシックとか他のジャンルの曲は全然聴いていなくて、あんまり興味なかったんですけど、先生やT君のオススメの曲を聴いたら、他にはどんなのがあるかなあと興味かきわいてきた。
8	76(17)	曲を集めているときすごく楽しかった。
14	67(53)	*いろいろな曲を知れてよかったです。あまり好きじゃない曲もあったけど好きな曲もできて楽しかったです。お薦めの曲を紙に書くというのをいつも意識していたから、いろいろな曲を、しっかり聴くようになりました!! 言葉を聴けるようになりました! 義太夫節みたいなのを聴くのもたまにはいいかな～
26	63(20)	3学期もやりたい。お薦めの曲が、やり始めたときよりもたくさん増えて楽しかったから、これからも増やしていきたいと思う。他の人が教えてくれる曲の中で、自分が知らなかった曲があったりすると、新しく自分のお薦めができてりするからよかったですと思う。
19	62(4)	とても楽しく授業を受けられてよかったです。いろいろな分野の曲が聴けて楽しく、おもしろかった。また、この授業したいです。
22	60(18)	楽しかった。3学期もやりたい。
36	55(22)	私は、この学習をして、いろいろな曲を知れてよかったですと思います。クラシックもあまり好きじゃなかったけど、ちょっとだけ興味が出てきたような気がします。
20	55(6)	やっぱりみんなのポップスが多かった。私の知らないクラシックなども勉強できた。クラシックやポップスなどいろいろなジャンルの曲を楽しめたから、この学習はよかったですと思う。
24	50(1)	歌を聴く時間が増えたのでうれしいです。勉強になった。この学習はすごくよかったです。めっちゃめっちゃおもしろかった。いろいろな歌が好きになった。
9	48(35)	おもしろかった。ポップスやクラシックの違いがよく分かった。
4	48(11)	*最初は普通で待てなかったけど、しばらくしていると、いろいろな曲を聴いて、どんどん楽しくなった。
37	46(8)	最初「私のお薦め30曲」の学習の説明を聞いて「え～、30曲も～!!」と思ったけど、結構おすすめ曲がたまりました。一番楽しかったことは、曲の紹介を聴くときです。ある人はクラシック、ある人はガンダムの曲、ある人はラップと、いろいろな個性があっておもしろかったです。
32	45(10)	あまりクラシックが好きじゃなかったけど、聴いたら、クラシックが好きになった。
2	45(6)	とても楽しくできました。おもしろかった。もっとやりたいです。集めるのも楽しいし、聴くのも楽しいです。いろいろ曲が知れてよかったです。
28	43(4)	楽しい授業だと思いました。歌に触れ合う機会が少なかったが、この授業のお陰で触れ合うことができました。
7	31(1)	最初は30曲も集められるかなと思ったけど、集めたりするのはとても楽しかった。
34	30(19)	お薦めの曲を集めていると、いろいろな曲のよさが分かってきた。それに、他の友達が持ってきた曲を聴いていると、勉強にもなった。
23	30(11)	ふつう100曲ぐらいしか知らないとしたら、300曲ぐらい知ったから、またやりたいです。
6	30(6)	授業を受けているうちに、いろいろな人の好みの曲が分かったり、「なんで～」というような好みに出会ったり、人の音楽に対する気持ちが分かった。僕はあまりクラシックは聴けなかったけど、ポップスはかなり聴いてた。だから、最初は(クラシックが好きな)T君の意見が理解できなかった。でも授業を受けているうちに、クラシックのよさが分かってきた。音楽に対する自分の気持ちが変わった気がする。この学習は僕にとってよかったですと思う。聴く力がぐんぐん付いたと思うから、音楽はおもしろいと思った。
3	30(18)	知らない曲ばかりだった。いい曲をほとんど知らなかった。いろいろな曲が聴けてよかったです。
12	28(2)	お薦めは、集めるのが楽しから、続けていきたい。
31	25(2)	いろいろな曲を知ることができてよかったです。授業がおもしろかった。
27	25(0)	欠席
29	21(14)	前の授業よりおもしろくなっている。自分のお薦めをみんなに聴いてもいい。相手のお薦めが聴けて、いい物が(自分の)お薦めに加えられておもしろい。
17	15(3)	前に好きじゃなかった曲が、ここで聴いたら、好きになれた。いろいろな曲を聴いて、良かったと思います。
16	15(7)	知らなかった曲もあったけど、すごく楽しかった。また、知ることができて、とてもうれしい。
11	15(1)	僕はやるまで30曲もダメだったので、冬休みで30曲以上いきたい。目標105曲いきたい。がんばるぞ～
1	10(4)	聞いたことがない曲が多く聴けたのでよかったですと思う。楽しくて真剣に聴ける。
13	5(4)	知っている曲が増えた。
25	4(0)	(この児童はCDアルバムのタイトル名のみ4曲を書いた。中の曲すべてという意味でいろいろな曲が聴けていいと思った。



4. 成果と課題

[グラフ1]

[グラフ2]

(1) 「意味のひろがり」 (=音楽がもつよさを「まなざしの共有」によって、獲得していくこと)
資料1「児童の感想」のコメントを詳細に読むと分かるように、友だちや先生が紹介する様々な音楽に出会えた喜びや、よさを受け入れる心のひろがりが見られる。

(2) 「内容のひろがり」 (=自分の「お薦め曲」の〈種類〉と〈量〉を増やすこと)

〈量〉について：学年別・学級別合計「お薦め曲」集計である〔表1〕に見られるように、

① 学年全体で延べ8023曲（1人平均73.6曲）もの「お薦め曲」が集められた。

次に、学年全体の1ヶ月の推移を表す〔グラフ1〕に見られるように、

② 85%の子どもたちが学習目標（30曲）に到達あるいは、はるかに超える結果を出している。

③ 残りのほぼ15%の子どもたちにも十分意欲的な努力の跡が見られる。

〈種類〉について：6A [20.3%→34.1%]、6B [15.8%→20.0%]、6C [16.7%→20.8%]

と、それぞれの学級において、子どもたちの「お薦め曲」中に含まれるポップス曲以外の比率が増加している。内容的には、授業で扱った様々な種類の音楽が加えられている。学年で平均すると [17.2%→24.5%] である。〔グラフ2〕は6年C組の「音楽の種類」の推移である。

今後の課題は、〔資料1〕から、他のジャンルの曲名が5曲以下である子どもたち19名への学習指導である。コメントを見る限りにおいては、非常に楽しい音楽の時間を過ごしているし、他のジャンルの音楽への共感的な態度も分かる。では、なぜ数字となって表れないのであろうか。

同様な実践をしたA組では7名、B組では5名という結果を見る時、あまりに多い数字に愕然とするのだが、もう少し詳しく分析を試みみると、〔表1〕で示した、集めた曲数が約1.5倍のB組では、ポップス以外の曲を含む割合が20.0%と、ほぼC組の20.8%と変わりがない。他方、総曲数で近いA組は、34.1%と、3分の1が様々な曲で占められている。ここで類推できるのは、C組は「個性派集団」ではないかということである。平均として変わらない割には、偏りが大きい。これを利点として考えれば、「個性的」であることを主張する子どもたちには、さらにその「個性的」な部分を伸ばしてあげて考えるのが妥当ではなかろうか。

また、B組のように、平均的にたくさんの曲を集める集団や、すでに様々な種類の音楽に親しんでいると考えられる子どもが多いA組においては、さらに様々な曲に触れる機会を設けることで、加速度的に音楽を生活化する基盤ができていくのではなかろうか。

最後になるが、C組の児童37の感想「(みんなの発表には) Jポップが多い。最近の曲が多い。メロディを聴いても名前(曲名)が分からないので調べました。調べているうちに好きなのが増えました。自分のお薦めが採用されたらうれしいし、採用されなくても楽しいと思いました(江田先生も勉強になったりして……)。」

この最後の一文に思わず「参った!」を言ってしまった。子どもたちの「お薦め曲」は、私にとっては未知の世界であったからだ。